

最新成果に驚きの反響

ダックエンジニアリング

「AI」「音声認識」の威力を実演

品質検査の面から「スマートファクトリー化」に取り組むダックエンジニアリング(京都市南区、TEL075・681・0133)が、画像処理技術で印刷・包装品質に勝つ―を掲げ、NewWASHOと共同出展した「コンバーティングテクノロジー総合展2020」で、新たな成果を披露し、熱い反響を浴びた。ロングセラーを続けるグラフィック印刷検査装置「Crossover」を多面的に拡充し、最近の開発成果である「AI技術」「音声認識」を応用した装置を搭載した新機種「Crossover」「HS」の実演稼働を繰り広げたからで、独走加速、イノベーターとしての比肩なき健脚を業界内外に強く印象付けた。

「HS」は、有力各社が覇を競い合うグラフィック印刷検査装置市場の中で普及の進むCrossoverのハイエンドバージョン。検査精度、検査速度、検査性能、表示能力、表示解像度、操作性、多言語対応等の大幅な向上改善を実現した。例えば検査精度は、リアル画像表示する1M

ン速度毎分300枚、分解能0・15ミ×0・15ミで100%検査を実現(ハードウェア処理)。検査性能は新開発の版かぶり回路を搭載し、より安定した検査を実現。表示能力はデュアルモニタ対応で、追加された画面に任意の場所を高精細り鮮明化技術)。同社がここ数年、意欲的に研究、応用に取り組む技術

機能を実現など。関係者を刺激したのは「ハイエンドバージョン」の高い成果だけではない。注目を浴びた要因の一つは、標準装備された「AI Superior Resolution」(欠陥画像)

「音声認識」も、ひととき関係者の関心を呼んだ。文字通り「声」の指示で機械を操作する装置で、例えば「検査開始」の指示に対し女性の声で「検査を開始します」と応答、同



ブース周辺は驚きの声で満ちた

「検査を終了しました」と心える仕組み。離れた場所から遠隔操作が可能

大きく「検査終了」に対し「検査を終了しました」と心える仕組み。離れた場所から遠隔操作が可能であり、非接触操作でタッチモニターを汚さず、両手がふさがっていても操作ができる。オプシオンで既存の検査装置等にも取り付けることができる。

ブースでは、「HS」はもちろん、静止画像検査装置「BEAT Vision」も「音声認識」で操作され、来場者はイヤホンマイクを耳に付け、各機器を「音声操作」。新感覚のオペレーションに多くの来場者が感嘆の声を上げていた。

なお同社が「目標」に掲げる「スマートファクトリー化」は、最大公約数的にはいわず、不足解消、廃棄プロセスの効率的生産性を前提に、より具体的に人手マとしていくそう。